

ちまたわ - 巷で話題の関連記事を紹介する会①

生成AIで論文をでっちあげ！？

2024年12月9日（月）

# 「恐怖！身に覚えのない論文が」

「恐怖！身に覚えのない論文が、私の名前で聞いたことない雑誌（ハゲタカ系？）に載っている。。。AIが書いたとしか思えない内容。所属はなぜか東大で、その中の部署は森林総研。メールアドレスはちょっとだけ違う笑」

2024-11-10 0:51 藤井一至（土の研究者） (@VirtualSoil)

<https://x.com/VirtualSoil/status/1855277008194052577>

- 執筆した覚えのない自分名義の2本の論文、架空の所属情報、生成AIで作成したと思しき内容
- 著者（とされている人）のメールアドレスは不達
- 問い合わせフォームはValidation codeが一致しない
- 出版社へのメールは反応なし
- Editorial boardに連絡したところ、1人は随分前に退任を申し出たのに対応してもらえておらず、もう1人は就任について連絡もなければ許可もしていないとのこと
- 15日には2本のうち1本の著者名が変わっていた

<https://togetter.com/li/2463455> (2024-11-19閲覧)

「生成AIで日本人の研究者かたり論文捏造か、収入目的の海外サイト「ハゲタカジャーナル」に掲載」2024年11月20日 読売新聞

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20241120-OYT1T50136/> (2024-11-22閲覧)

「このサイトは、海外の研究者がハゲタカジャーナルの可能性があるととしてネット上でリストを公開している約1300の学術誌サイトの一つ。多数の論文が掲載され、有料で投稿を呼びかけている。藤井氏以外の日本人とみられる研究者の名前や国内外の研究機関に所属しているとする著者の論文もあった。

藤井氏名義の偽論文が掲載された経緯は不明だが、実績のある研究者が論文を投稿する良質な学術誌と装うことで、別の研究者に新規投稿を促し、掲載料を集めようとした可能性がある。」

「研究倫理に詳しい一般社団法人「科学・政策と社会研究室」の榎木英介代表理事の話

「実在の研究者をかたった偽論文の被害は海外で報告されており、日本人研究者が気づいていないだけで、もっと被害が広がっている可能性がある。生成AIの登場で論文の捏造が容易になっており、学術の世界が汚染される危機感が高まっている」」

「生成AIで日本人の研究者かたり論文捏造か、収入目的の海外サイト「ハゲタカジャーナル」に掲載」2024年11月20日 読売新聞

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20241120-OYT1T50136/> (2024-11-22閲覧)

# 偽論文問題は生成AIによって悪化する？

“Researchers are also concerned that the rise of generative artificial intelligence (AI) tools will exacerbate the problem by providing more ways to quickly generate fake papers that can dodge current detection methods.”

「研究者はまた、生成人工知能（AI）ツールの台頭により、現在の検出法をかわすことのできる偽論文を迅速に生成する方法が増え、問題がさらに悪化することを懸念している。」

“Science’s fake-paper problem: high-profile effort will tackle paper mills” (2024-01-29)

<https://www.nature.com/articles/d41586-024-00159-9> (2024-11-20閲覧)

# 著者による懸念の表明

“They argue that our content is simply used for “training”, and nothing is reproduced verbatim, but this is simply untrue. Verbatim responses are not uncommon, along with hallucinations such as fake references that use our names.”

「彼ら（＝AI開発企業）は我々（＝著者）のコンテンツは単に「学習」に用いられるだけで、そのまま再現されることはないと主張するが、これは単に間違いだ。そのままの再現が、我々の名前を使った偽の参考文献のようなハルシネーションと一緒に出てくることは珍しくない。」

“For us, the irreparable loss is to the integrity of our work.”

「我々にとって、取り返しのつかない損失は我々の仕事の完全性に対するものだ。」

“Guest Post: Supply Chain of Writing Fools” (2024-11-20)

<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2024/11/20/guest-post-supply-chain-of-writing-fools/> (2024-11-22閲覧)

# 捏造を見抜くための整備は進んでいるか？

“ORCID is now ten years old and most journals still don’t require that all the authors have one. If we as an industry are so delinquent in implementing basic author identifiers, what chance do we have to consistently detect research faked by sophisticated AIs?”

「ORCIDは10年も前のものだが、未だに多くのジャーナルは全ての著者にORCIDを持つことを求めている。業界として基本的な著者識別子の実装がこれほど遅れているとしたら、洗練されたAIによって捏造された研究を見抜くチャンスはあるだろうか？」

“SSP Conference Debate: AI and the Integrity of Scholarly Publishing” (2023-06-27)

<https://scholarlykitchen.sspnet.org/2023/06/27/ssp-conference-debate-ai-and-the-integrity-of-scholarly-publishing/> (2024-11-20閲覧)